

## 第24回日ブラジル経済合同委員会 林外務大臣 ビデオメッセージ(5分程度)

(2023年7月5日(水)及び6日(木))  
(於:ブラジル・ミナスジェライス州ペロオリゾンチ))

- ボア・タルジ・ア・トードス。皆様こんにちは。
- 日本とブラジル両国の経済界相互の交流の促進を目的とする、「日ブラジル経済合同委員会」が、4年ぶりに対面形式で開催されることを大変嬉しく思います。また、これまで、経済関係の強化の在り方について両国経済界の立場から様々な貴重な提言を頂いてきたことに改めて感謝申し上げます。
- 日本とブラジルは、長年にわたる友好協力関係を有しており、価値と原則を共有する戦略的グローバル・パートナーです。私は、本年1月の私のブラジル訪問時、また、5月に広島で、ヴィエイラ外務大臣と会談を行いました。その際、双方の間で、両国間の経済関係のポテンシャルは大きく、デジタルやグリーン分野を含め、貿易・投資関係を強化していくことで一致しました。
- そして、G7広島サミットの際に私も同席した日ブラジル首脳会談では、岸田総理とルーラ大統領との間で、両国が官民で貿易・投資関係を更に高い次元に持っていくことで一致しました。
- 今後は、こうしたリーダー間のやりとりのフォローアップをしっかりと進め、目に見える成果につなげていく必要があります。私は、ルーラ政権が進める「再工業化」において重視されているデジタルやグリーン分野を含め、様々な分野で両国間の貿易・投資関係を強化していきたいと考えています。
- また、世界経済に目を転じれば、ウクライナ情勢を受けて、世界がサプライチェーンの混乱や食料・エネルギー価格の高騰に直面しています。

- こうした中、鉱物、エネルギー、食料といった資源が豊富な中南米、特にブラジルとの連携は重要であり、サプライチェーンの強靱化に向けて議論していきたいと考えています。
- さらに、気候変動やエネルギー問題は、一刻の猶予も許さない状況にあります。脱炭素社会の実現を通じた環境保護・気候変動対策においてもブラジルと緊密に連携していきたいと考えています。
- ルーラ大統領に参加いただいたG7広島サミットでも、エネルギー安全保障、気候危機、地政学リスクを一体的に捉え、再エネや省エネの活用を最大限導入しつつ、経済成長を阻害しないよう、各国の事情に応じ、あらゆる技術やエネルギー源を活用する多様な道筋の下で、ネット・ゼロという共通のゴールを目指すことの重要性を共有しました。
- いま述べたような様々な取組を進める上で、企業の皆様の取組が何よりも重要な鍵となります。今回の経済合同委員会では、貿易及びグローバル・バリュー・チェーンの多様性のほか、脱炭素化・クリーンエネルギー、デジタル化に向けた協力等をテーマに議論が行われると承知しています。非常に時宜にかなったテーマであると考えます。
- 日本とブラジルがそれぞれの強みを生かしながら持続的成長、強靱な経済を築いていけるよう、提言も踏まえながら官民で英知を結集させていきたいと思えます。
- 本日及び明日の会合の成功をお祈りいたします。

ムイント・オブリガード！

(了)